



2023年5月26日

各位

会社名 株式会社日本色材工業研究所
代表者名 代表取締役社長 奥村 華代
(コード:4920 スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 管理部長 内田 実
(TEL.03-3456-0561)

上場維持基準への適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月21日に、スタンダード市場の上場維持基準の適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。2023年2月末時点における計画の進捗状況について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移および計画期間

当社の2023年2月末時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、下表のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社は2025年2月末までに上場維持基準を充たすために、引き続き各種取組を進めてまいります。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の適合状況 およびその推移	2021年6月末時点 (移行基準日)	1,243人	7,584単位	931,750,347円	36.1%
	2023年2月末時点	1,594人	6,752単位	842,894,290円	32.1%
上場維持基準		400人	2,000単位	1,000,000,000円	25%
当初の計画に記載した計画期間		—	—	2025年2月末	—

※当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

※2021年6月末時点の流通株式数および流通株式比率には、特別利害関係者が保有する株式が含まれております。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組みの実施状況および評価（2021年12月～2023年2月）

流通株式時価総額の基準を充たしていないことの主な要因は、コロナ禍によりマスク着用が常態化し、当社が主力とするメイクアップ製品の需要が大きく落ち込んだことにより業績が振るわず、その結果、株価が低迷したことにありとと考えております。

また、株価上昇のためには、短期的な業績のみならず、持続的な成長によって企業価値の向上を実現し、株式市場で適切に評価されることが不可欠であると考えております。

当社は、2021年12月21日に開示した計画書の取組内容「①中長期的なビジネス戦略の策定・実施による企業価値の向上」を実現していくための指針として2023年2月期より「中期事業戦略ビジョン(2022-2026)」をスタートし、「競争優位にある「強み」製品の強化と拡大」、「クリーン・ビューティーへの積極取組」、「高収益体質への転換」を重点戦略として取り組むことといたしました。

上記取組期間においては「コロナからの復活」と「将来の成長に向けた事業基盤の再構築」のための諸施策を着実に実行し、その結果は、2023年2月期決算において3期ぶりの営業黒字を計上したことなどの業績の回復となって表れております。

また、同計画書「②流通株式比率改善に向けた施策」として、HP等を通じ展示会の出展の様子やR&D活動を紹介するなど、IR活動の強化に積極的に取り組んでまいりました。その結果、当社の事業内容のより深いご理解を通じた企業価値の向上に貢献しているものと考えております。

引き続き、これらの取組みを継続していくことが、流通株式時価総額の基準を充足することにつながるものと評価しております。

3. 上場維持基準に適合していない項目ごとのこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

今後、コロナ禍が徐々に収束し、社会がウィズ・コロナ／アフター・コロナに移行していくと思われれます。このような経営環境の変化を踏まえて、コロナからの復活・回復のモメンタムを持続し、更なる成長へつなげられるかが課題と考えております。

今回の判定結果の基準となった株価は1,248.30円でございますが、その後、株価は3月の日々の終値平均が1,430.27円、4月の日々の終値平均が1,742.75円と、足元は判定基準時点より上昇しております。この株価水準の動きの理由について、当社では、マスク着用の緩和などコロナ禍からの脱却への動きや、2023年2月期決算において3期ぶりの営業黒字を計上したことなどが株式市場で評価されたものと考えております。

今後、コロナ禍が徐々に収束していくと見込まれる中で、当社は、「中期事業戦略ビジョン(2022-2026)」の戦略に基づく各種施策を着実に実行し、業績のさらなる向上および黒字を継続させることで企業価値を向上させ、スタンダード市場の上場維持基準（流通株式時価総額）の適合を図ってまいります。

以上